14. 第２回ＩＴを活用した教育センターワークショップを終えて

第２回 ITを活用した教育センターワークショップを終えて

別添資料1　D３授業 年間スケジュール

別添資料2　D３ 授業概要修正案

昭和大学歯学部３年生に対する授業計画　修正案

の部分をクリックするとジャンプします

第 2 回 IT を活用した教育センターワークショップを終えて

昭和大学歯学部　スペシャルニーズ口腔医学講座
歯学教育学部門　片岡竜太

年度末のお忙しい中、WS にご参加いただきありがとうございました。
大変活発な討議がなされ、有意義な WS になった事を心から御礼申し上げます。

本プロジェクトは、超高齢社会で活躍できる歯科医師を養成するために、今まであまり教育をしていなかった１）口腔乾燥症　２）基礎疾患を有する患者の歯科診療　３）地域における歯科医療という３つのテーマについて、IT を活用した教育プログラムを作成することを目的としています。このプロジェクトを遂行するために、４つの WG を結成しました。それぞれの WG で、３つの教育テーマについて IT 教材を作成していただく訳ですが、具体的な目標が必要なので、昭和大学歯学部 3 年生 9 月に実施されるユニット「チーム医療と口腔医学 I」10 時間で用いる教材を作成していただきました。

反省点の１として、昭和大学歯学部の教育、特に 3 年生の教育についてのご説明が足りませんでした。添付の PDF に概略を示しました。隣接医学（ヒトの病気 A,B）は 3 年生と 4 年生の 2 年間で行いますが、循環器系疾患、神経筋疾患から学びます。基本的に医学部の先生が授業を行いますが、循環器系の最初、および神経筋疾患の 1 時間目に歯科との関連をわかりやすくするために、歯学部教員が導入授業を行っています。そのほか、5 月に「老化の病理」7 月に「唾液腺疾患の病理、臨床象、画像」を学んでいます。ここで学んだ事を「チーム医療と口腔医学 I」でさらに深めてもらえれば良いと思います。また、「チーム医療と口腔医学 I」で学んだ事を以下の授業で活用してもらえれば、各自自信がつくと思います。
10 月には「医療面接の基礎」「病院病棟における看護業務と全身状態の把握」「病院病棟体験実習」「医歯薬保健医療学部 4 学部連携 PBL（テーマ:脳梗塞，パーキンソン病，慢性関節リウマチ，SLE など)」を学んでいます。　（別添資料１参照）

反省点の２として、１）口腔乾燥症　２）基礎疾患を有する患者の歯科診療　３）地域における歯科医療の３つのテーマは重要なテーマですが、ユニット「チーム医療と口腔医学 I」ですべてのテーマを行う事が難しいことが判明しました。そこで、脳卒中後遺障害がある 75 歳の男性を中心とした授業を考えました。　（別添資料２参照）

グループ２でご検討いただいた心疾患を有する患者の歯科診療は、前述した「ヒトの病気 A」の導入講義に最適だと考えます。

この授業修正案は各 WG の責任者（美島教授、城教授、向井教授、越野教授）で協議の上了承されましたので、今後この授業案に当てはめて IT 教材を作成していただきたいと存じます。
何卒よろしくお願い申し上げます。

口腔生理機能

D2

11月～1月

D3

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

口腔医学実習Ⅱ

口腔ケア

ヒトの病気A

循環器疾患

- 循環器疾患と検査について説明できる
- 心臓の拍動と不整脈について説明できる
- 動脈硬化と冠動脈血栓について説明できる
- 心筋梗塞と合併症について説明できる
- 抗血小板薬、抗凝固薬と歯科診療の対処法について説明できる
- 心筋疾患、弁膜症について説明できる
- 感染性心内膜炎について説明できる

ヒトの病気A

神経筋疾患

- 認知症、脳梗塞後遺症と歯科診療について説明できる
- 神経所見のとり方について説明できる
- 麻痺、認知症について説明できる
- 脳血管障害について説明できる

老化の病理

- 老化機構ならびに老化現象（身体的老化、精神的老化について実例を学習する
- 老人病の種類、および特徴について実例を学習する

唾液腺疾患

- 唾液腺の異常、退行性病変の分類、発生部位、臨床所見を説明できる
- 唾液腺の嚢胞、炎症、感染の分類、免疫異常疾患の分類、発生部位、臨床所見を説明できる

チーム医療と口腔医学Ⅰ

急性期～慢性期の医療

超高齢社会

口腔乾燥症

脳梗塞

医療面接の基礎

病院病棟における看護業務と全身状態の把握

昭和大学付属病院 病院病棟体験実習

4学部連携PBL

医・歯・薬・保健医療学部の学生が学部の専門性を発揮しながら討論できる臨床症例を提示

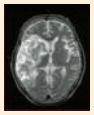
中心テーマ

1. 脳梗塞
2. パーキンソン病
3. 慢性関節リウマチ
4. ＳＬＥ

に対するチーム医療









老化と口腔病変

- 老化、老年病、加齢に伴う口腔組織について説明できる

修正案

D3　チーム医療と口腔医学Ⅰ（チーム医療Ⅰ）　対象学年：３年生　後期

一般目標(GIO)：

国民の健康に貢献できるオーラルフィジシャン(口腔科医)になるために、医療の仕組みと高齢者に多くみられる全身疾患、口腔症状および多職種連携のチーム医療を理解し、口腔症状への対応の基本を身につける。

到達目標(SBOｓ)：

1. 日本の将来人口推計等から今後の日本の医療・歯科医療体系を考える。
2. 高齢者の身体的･心理的特徴について説明できる。
3. 高齢者に多く見られる基礎疾患について概説できる。
4. 脳梗塞後遺症の症状と口腔の機能に対する影響を説明できる。
5. 高齢者に多く見られる口腔症状について説明できる。
6. 唾液の分泌に影響を与える因子について説明できる。
7. 脳梗塞後遺症患者の歯科診療における注意点を概説できる。
8. 脳梗塞発症から症状の回復までの一連の医療体制を概説できる。
9. 医療・歯科医療の連携と病院・地域におけるチーム医療の基本を説明できる。
10. 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、嚥下機能測定、および咬合力測定を実施し、その結果を評価できる。

授業１：　社会背景　（担当WG３．４）
　　高齢者の身体的・心理的特徴など
　　人口構成の変化が歯科医療サービスに及ぼす影響

授業２：　**脳卒中の患者さん(75 歳)**が歯科診療室を受診　（担当WG４）
　　インレーセット時に誤飲させそうになる。
　　１）歯科ユニットへの移乗(トランスファー)
　　２）口腔機能障害
　　３）口腔症状(口腔乾燥症)

授業３～６：高齢者に多い口腔状態としての口腔乾燥症　（担当WG１）
　　口腔乾燥に対する口腔ケア

授業７：　**脳卒中の患者さん(75 歳)**の発症(急性期病院)からリハビリテーション、自宅療養(現在)を患者さんの話を通して学ぶ。急性期から慢性期、在宅の流れを学ぶ。
　　（担当WG３）

授業８：　急性期病院における多職種連携チーム医療および周術期口腔機能管理を学ぶ。
　　（担当WG３）

授業９～10：口腔診察・検査実習と疾患(口腔水分計、口腔内細菌カウンター、咬合力計などを用いた実習)

ヒトの病気Ａ導入講義：　基礎疾患を有する患者の歯科診療　（担当WG２）

昭和大学歯学部3年生に対する授業計画 修正案

授業(回)	年月日	時限	学習項目	学習内容	対象SBO	担当
授業1 授業2	平成25年 9月10日 (火)	1 2	全身がわかる歯科医師がなぜ必要か？	日本の高齢化率、将来人口推計から今後の日本の社会と医療を考える。 高齢者の身体的、心理学的特徴と高頻度に見られる基礎疾患と口腔疾患を学ぶ。 脳卒中後遺症の患者さんから身体・口腔症状を学ぶ。	1 2 3 4 5 6	高齢者歯科 口腔衛生
授業3 授業4	平成25年 9月17日 (火)	1 2	口腔乾燥症と疾患 ①	高齢者に多い口腔症状としての口腔乾燥症を学ぶ。 基礎疾患を有する患者のシナリオを用いて Small Group Discussion により唾液分泌に影響を与える因子とそのメカニズムについて学習する 。	7 8 9	口腔病理
授業5 授業6	平成25年 9月24日 (火)	1 2	口腔乾燥症と疾患 ②	グループで口腔乾燥症例に対する説明を考え発表する。 発表後、e-learningとリソース講義により唾液・唾液分泌における基本的事項の確認基礎疾患と唾液分泌障害の関連性について理解する。	7 8 9 10	口腔病理
授業7 授業8	平成25年 10月1日 (火)	1 2	脳梗塞を発症した患者から、医療の仕組みを学ぶ	医療・歯科医療の仕組みと連携を、脳卒中の発症(急性期病院)からリハビリテーション、自宅療養(現在)に至る患者さんの話から学ぶ。 チーム医療の基本(構成メンバーと役割)および歯科が担う口腔のケアの目的を学ぶ。	1 2 3 4 5 6	口腔衛生
授業9 授業10	平成25年 10月1日 (火)	3 4	口腔診察・検査実習と疾患	唾液分泌能(ガム、サクソンテスト)、口腔乾燥度、細菌数、嚥下機能、および咬合力の測定を学生相互で実施し、結果をカルテに記入する。 異常値が得られた場合、原因や原疾患についてe-learningで学ぶ。 これらの検査を活用した D4 実習、D5 病棟実習についてリソース講義で学ぶ。	7 8 9 10	病理 薬理 生理 微生 衛生